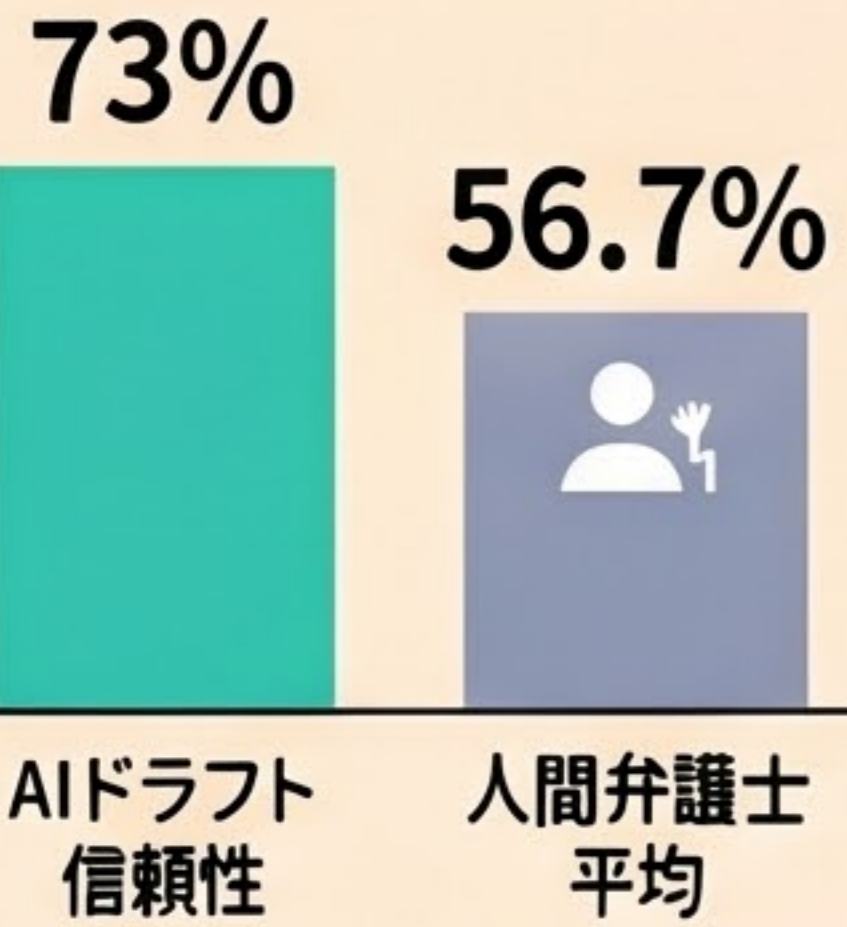


2026年 知財ライセンス業務の変革：AIエージェントの衝撃と日本の課題

AIの信頼性が人間を逆転

AIの信頼性が人間を逆転

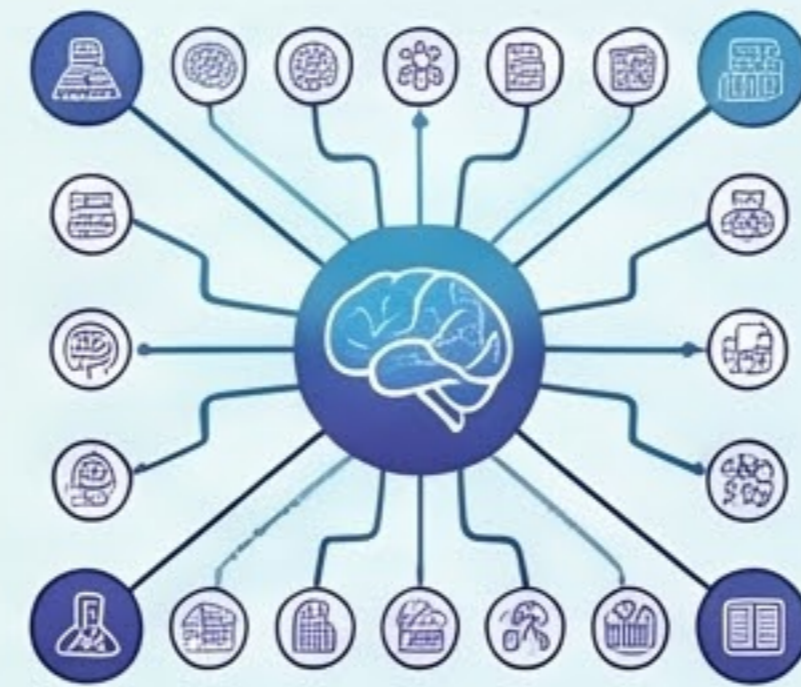


グローバルで加速する自律型AIの最前線



自律型契約交渉の実現
Luminance等のツールは、相手方との修正費の達受、自社ポリシーに基づく修正、再修正への対応を人間を介さずAI同士で完結する。

Pactum AI



- 数千社との狂行交渉とコスト削減
- ビジネス契約の68%で条件改善
- 平均3%のコスト削減を達成

日米の受容格差と「制度的沈黙」の正体

米国 (2025年)

- 法律事務所の半数がDXを推進

日本市場 (2029~2031年)

制度的沈黙

非併行為のリスクに対し、損賠当局や弁護士会が明確な基準を示さず「沈黙」

許諾のバラドックス
網羅的なセキュリティ監査に数ヶ月~1年以上。技術の進化に追いつけない承認文化。

顕在化するリスクと日本独自の法的判断



日本の特許法における「AI発明者」の否定
2025年1月、知財審判はDABUS製薬において「発明者は自然人に限られる」と明言。



根強いハルシネーションのリスク
法律専用AIツールでも17%~34%で事実に基づかない頼った回答(ハルシネーション)が発生する。

業務の3層ピラミッド



主要な知財・リーガルAIツール(例)

Harvey AI

知財専用ワークフロー。特許ライセンス討議、過去の先例に基づく金庫調整

Luminance

独自のLegal LLM、非標準業務のリスク分析、NDA等の自律交渉

Spellbook

2,300種の契約ベンチマーク、提示書類と市場標準の報酬可視化

PatSnap

2億件以上の特許データ、セマンティック検索によるライセンス候補の自動特定

戦略的提言: 知財実務家が取べき対応



作業員

定型業務をAIに任せ、人間はAIの出力を統合し、戦略的方針を指揮する役割へと再定義。



オーケストレーター



アジャイル・ガバナンスの導入
部門内に根拠的な「AIサンドボックス」を構築し、機密情報を保護しつつPoCを短サイクルで回す体制が必要。